

Friends

フレンズ

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

Autumn

2023

MeySen
Newsletter

No. **204**




MeySen



Autumn Excitement!

今年の夏は猛暑が続いていたので、秋が来るのが待ち遠しかったですね。さあ、2023年度も後半スタートです。過ごしやすく安心して外遊びもできるこの季節、クラスの先生やお友達とたくさん話して笑い合いながら、冬の前にエネルギーをチャージしましょう！



たき火

6年・プレミアG6 東京旅行



5年 那須旅行



タドラークラスが始まりました！

9月、明泉幼稚園は2歳児48名を迎えました。年少の1つ下の学年「タドラークラス」のスタートです。入園式には、少し緊張の面持ちの2歳児がお父さん・お母さんとともに登園しました。8月の一入園で幼稚園には来ていましたが、まだ大勢のお友達や大人のいる場所で緊張する子もいます。保護者に抱かれて着席し、園長先生のお話を静かに聞いたあと、先生達と一緒に歌と手遊びで楽しむと、たくさんの笑顔があふれてきました。式の終わりには「もう終わりのな」と思わず言ってしまう子も。タドラー用の新しい帽子もみなすぐに気に入って、これからの幼稚園生活に期待がふくらんでいます。



丸山もみじ組担任 千葉 恵美子

小さな手をたくさん動かして、上靴を履いたりスモックを着たり、時間がかかることもありますが、できた時にはキラキラの瞳と笑顔で「できたよ!」と教えてくれます。日々の積み重ねでできたことを一緒に喜びながら子供達の挑戦を応援していきます。



丸山けやき組担任 仁和 由喜

入園式から慣らし保育を経て、9月は幼稚園での一日の流れを覚えながら過ごしてきました。今では昼食もみんなで楽しく食べています! 10月からは英語の時間も始まったので、子供達の世界がますます広がります。



高森もみじ組担任 今野 美奈

園生活が始まり、お部屋、ホール、お散歩と遊び場が広がっていくたびに、子供達の笑顔も増えてきています。みんなと一緒に過ごすことで、友達に目が向いたり真似をしてみたりと、お互いに刺激を受け合い、興味関心がどんどん高まっているようです。子供達と一緒にこのタドラークラスを楽しみたいと思います。

1976



アメリカのバスは昔からなが〜〜い!



サンフランシスコ ゴールデンゲートブリッジにて

笑いあり!



特集

45周年を迎えました



涙あり...



衣装あり!?

1976年に初めて中1アメリカ研修旅行を実施してから、本来であれば2020年が45周年でしたが、コロナ禍で3年中止を余儀なくされてやっと今年度、45周年を迎えることができました。これまでの参加者は実に7,416人にのぼります。

フィリップ・ブローマン名誉理事長が現地をいろいろ下見して作り上げたこの研修は、キャンプ、ホームステイ、ヨセミテ国立公園やディズニーランドなどの観光と、今も第1回の旅程とほとんど変わらず実施しています。

研修から帰国した中1生からよく聞かれるのは、「今よりもっと自分の考えや思いを伝えられるように、英語の勉強がんばる」「アメリカに留学したい」という声です。将来への大きなモチベーションとなるこの研修は、1回目からの長所を引き継ぎつつ時代に合わせた改善もしながら、フレンドクラブ6年間の集大成となるよう続けてまいります。

※シーワールド・サンディエゴ開園前は、ロサンゼルスのマリンランドを見学していました(マリンランドはその後閉園)。

2023



昔の写真と見比べてみよう!



アメリカ研修旅行での経験を成長と自信の礎に

ジャン・ブローマン理事長

グループリーダー、団長アシスタント、そして団長と、私は中1アメリカ研修旅行を1977年度の第2回から30回以上にわたって引率しました。1981年8月のアメリカ航空管制官組合ストライキでフライトがキャンセルされ、シアトルの空港に到着。わずかに飛んでいる代替便を確保するなど、不可抗力による大きなハプニングもあれば、生徒が旅行中に病気をしたりケガをしたりして急な変更を余儀なくされることもありました。

中でも、私が団長を務めていた忘れられない旅行があります。キャンプもホームステイも滞りなく終わり、サンフランシスコに移動する日の朝のことでした。各ホストファミリーがステイした生徒を連れて集合場所の教会に集まってくる中、時間になっても2人の生徒が来ないのです。すると、教会の反対側にある大通りから救急車とパトカーのサイレンが聞こえてきました。まさかと思って駆けつけると、生徒とホストファミリーが乗った車が後方から来た大型の工事車両に追突され、車の後部は完全にへこんで、中に入っていた生徒のスーツケースは湾曲していました。

私はアシスタントと他の引率教員に旅程の進行を任せ、生徒達の救急搬送に付き添いました。検査の結果、2人とも車内で寝ていて体に力が入っていない



アメリカ旅行を作り上げ、第1回から第30回まで団長を務めたフィリップ・ブローマン名誉理事長と

かったことが幸いし、1人が頭を3針縫うケガのみで済みました。医師から旅行の継続も認められ、私達は急いで団を追いかけてサンフランシスコに飛び、夜にホテルで無事合流することができたのです。

また、別の年には、私の団のハワイから成田までのフライトが確保できず、韓国ソウルに1泊して帰国することになりました。生徒達は疲れが頂点に達していて早く日本に帰りたいはずでした。しかし、夕食をとったホテルのレストランでは、旅行がいよいよ終わろうとしている興奮と達成感で、みんなの心は不思議なくらい一つになっていました。子供達がリーダーやウェイターとやり取りしている態度や、子供同士で楽しそうに会話する様子を一部始終見ていた韓国人の店長が、私達の帰り際に「中学生の子供達がこの大人数でもまとまっていて、自信と笑顔にあふれていて、本当に素晴らしいですね」と言ってくれたことがとても嬉しく思い出されます。

中学1年生が約3週間にわたりアメリカで移動しながら様々な経験をするとこの旅行は、他の学校や旅行会社の企画でも見られない非常に珍しい内容です。この年齢、この人数で、大小のハプニングに見舞われながらも生徒一人一人が貴重な経験をし、かけがえのない思い出を胸に無事帰国できたことは、神様に守られていなければ叶わなかったことだと私は強く思っています。

先日、フィリップ名誉理事長とアメリカ旅行について話す機会がありました。私達2人の願いは、これから後に続く子供達も、この旅行で一生涯に残る体験をしてくれることです。来年度以降の旅行の成功も心から祈っています。

子供達の勇姿をカメラに収めるジャン先生



いろいろなハプニングがありました...

団長達の思い出

ダニエル・ファンガー 園長

(団長歴：1989年～2023年で16回)

何といても一番の危機は2016年夏に利用した航空会社のシステム障害でしょう。第1班が旅行最後の3日間を過ごすハワイへ向かう朝、ロサンゼルス空港に着き、いつものように航空会社のカウンターに並んだものの、列が一向に進まないばかりか不安そうな顔のお客さんが多数おり、職員に尋ねたところシステムの障害があることを知らされました。対応にしばらくかかると言われながらさらに待つこと3時間ほど、その結果、当日の飛行はおろか、復旧に最低3日はかかる見込みと知らされました。子供達が楽しみにしている旅程の最後の3日間を棒に振り、このまま帰国になるのかとの思いが頭をよぎりました。

そこで私はスマホで検索し、マウイ島を経由してオアフ島に行くハワイアン航空の便に空席があることが判明。ハワイアン航空のカウンターはいくつもあるターミナルの一番遠くにあり、チェックインの時間も残りわずかでした。他の引率者に子供達を連れてカウンターまでなるべく早く来るように指示し、私は先に走って向かいました。カウンターではちょうど最後の乗客のチェックインが終わって職員が搭乗を締め切るところでしたが、速やかに対応していただき、チェックイン可能な最後の数分でなんと全員分のチェックインを済ませ、

他のお客さんが全員搭乗を終えていたフライトにギリギリ間に合い、無事にホノルルに飛ぶことができました。経由地の



旅行が進むにつれて子供達は自信にあふれた豊かな表情に



ヨセミテの川で水泳を楽しむ子供達を撮影中の園長先生

マウイ空港で夕食を食べ、子供達には「アメリカ旅行の歴史の中でマウイ島に来たのは君達だけだよ」と伝え、みんなでお祝いの乾杯をしました。

武浪 忠 副園長

(団長歴：2006年～2007年、2010年～)

第2班も、その翌日のシアトル～サンフランシスコ便が同じシステム障害でキャンセルとなり、生徒14人と引率の先生達がシアトルで足止めされました。他の航空会社にあたってサンフランシスコ行きはすべて満席でしたが、その日のうちに着かなければ旅程が狂ってしまうため、サンフランシスコから車で約2時間のサクラメント行きをやったことで確保しました。

深夜にホテルに着いて生徒達を安心させることができましたが、スーツケースだけがサンフランシスコ空港に送られてしまったので、私は1人でタクシーで現地に向かい、スーツケースを引き取ってホテルに戻ったのは翌朝の4時でした。

長年の引率の中で最も長い一日でしたが、全員そろって次の見学地であるヨセミテ国立公園に出かけることができました。

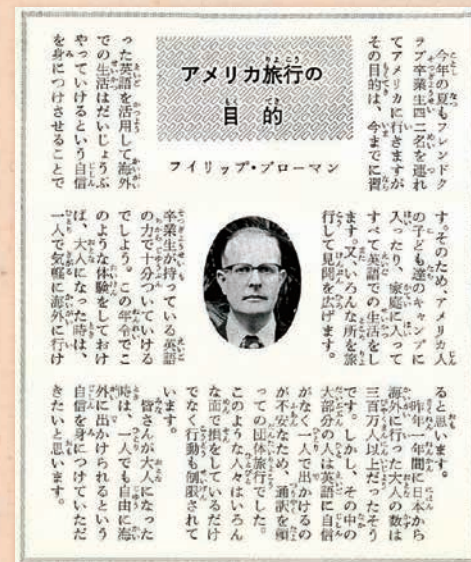


キャンプ場で馬の世話・調教をしているスタッフ「Wrangler」と(2023年)

他にもあります

アメリカ研修旅行ハプニング集

- ★ 火災でヨセミテ国立公園が閉鎖され、見学先や宿泊先を急ぎ変更した(1990年・2018年)。
- ★ 天候不良でサンフランシスコ行きの便が遅延し、ゴールデンゲートブリッジ見学ができなくなった。これまでに数回あり、残念ながら今年の高森女子グループも同様だった(2007年・2023年など)。
- ★ ヨセミテでキッチンスタッフのストライキが発生。昼食のお弁当を作ってもらえず、他のスタッフでなんとか用意してもらえた(2010年)。
- ★ ハワイ成田便が当日キャンセルされ、急ぎ80人を仙台直行便に変更した(2013年)。



1978年のニュースレター

サンフランシスコでの食事風景



第1回のアメリカ旅行。右から3番目が名誉理事長(1976年)



今年はプレミアの子達と一緒に!

3年ぶりのアメリカ旅行!



Camp

英語でのコミュニケーションは、正直に言えばとても難しかったです。でも、ジェスチャーや表現、声のトーン、うなずきなど、言葉以外にもたくさん思いを伝えられる方法があり、それを使うことでアメリカ人にも伝えられると実感したキャンプでした。

富塚 咲那 (Shannon)

Homestay



ホームステイでは、写真を見せたりしながら自分について知ってもらい、自分からもいろいろ質問してホストファミリーのことを知ろうとしたことで、最初から家族と親しくなれました。これからも電話や手紙で仲良くしたいです。

鈴木 晃太 (Randy)

Yosemite



Golden Gate Bridge



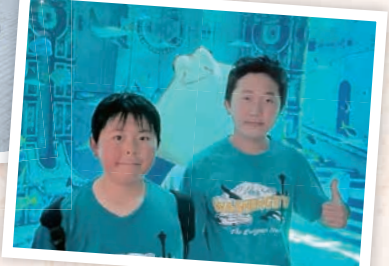
国土の大きさや自然の豊かさなどから、ホテルやテーマパークなどの観光施設、自分の意見をはっきり言う点や元気なところなど、日本とアメリカの違いをたくさん見つけることができました。それぞれのいいところを見つけて、違いを楽しむことが大切だと思いました。

千葉 みのり (Bonnie)

アメリカの方々は、何かをしてもらったときは友達でも家族でも感謝の言葉を伝え合っていました。何かをもらうことは当たり前ではなく、感謝するべきことだと学んだので、これからは感謝の言葉を声に出して伝えていこうと思います。

鈴木 仁那 (Carla)

Sea World



Disneyland

母娘2代で参加!

娘 石山 明佳里 (Judith)
丸山ハイスクール7年

キャンプやホームステイでは、アメリカの文化や習慣に注目しながら、より多くの人のかかわりを持てるように生活しました。また、自分にも意見があるのに、恥ずかしいからやめんどくさ

いからといって言わないまま終わらせてしまうのはもったいないと気づき、言葉にして伝えないといけないと思いました。そして、実際に意見を言うようになり、積極性の面で大きく成長できたかなと感じます。

大人数での移動や生活はとても大変だったけれど、そのかわりに自分にはない視点にも気づくことができると知り、話をちゃんと聞いて自分の行動に責任を持つようと思いました。

今後自分の英語力を高めるため、知らない単語や相手の話がわからない時には必ず意味を調べて、わからないままにしないことに力を入れたいです。

旅行では、常に感謝の気持ちをもって一つ一つ行動しました。たくさん楽しい思い出ができ、アメリカに行く前の自分よりも、心も実力も成長できたと思います。



後列中央が明佳里さん



後列左から3番目(先生含む)が麻美さん

母 石山 麻美さん (Marianne 旧姓: 岩月)
丸山フレンドクラブ同窓生

娘は初めのうち少し緊張もしたようですが、皆さんとても優しく親切に接してくださいました。約2週間半、異文化と経験したことのない環境に触れ、外国人のお友達や家族との交流はとても貴重な経験で、宝物となりました。幼稚園からこれまで9年間、幼稚園とフレンドクラブに通った成果を試し、存分に楽しみ、こういう世界もあるのだと大きく成長して帰ってきました。

アメリカはすべてにおいてスケールが大きく雄大で、アメリカ人の同世代のお友達はしっかりと自分の意見をもって、外見も内面も大人に感じたそうです。

コロナ禍以降、初のアメリカ研修旅行が安全に無事にできたことに感謝の気持ちでいっぱいです。例年より旅行期間が短く、ハワイに行けなかったことは少し残念でしたが、きめ細やかな計画で、体調を崩した生徒もいた中での旅行中の様々なケアなど、本当にありがとうございました。

私もフレンドクラブの卒業生でアメリカ研修旅行経験者ですが、学びが多く、楽しく有意義な旅行だったことが今でもとても懐かしく思い出され、娘もぜひ参加し、経験することができたらと思っていました。このような素晴らしい機会をもうけていただいたことに大変感謝しております。ありがとうございました。

ジャイアント・セコイヤってどんな木?

アメリカ研修旅行で訪れるヨセミテ国立公園をはじめ、シエラネバダ山脈西部でのみ見られるジャイアント・セコイヤは、世界最大かつ最も古くから生きている生物とも言われています。ヨセミテに生えている巨木「グリズリー・ジャイアント(高さ64m)」の推定年齢はなんと2,995歳!*

第1回アメリカ旅行参加生徒の保護者が1976年に丸山キャンパス「よい子のガーデン」に記念植樹したジャイアント・セコイヤは、カリフォルニア州から取り寄せた約3mの苗木でした。すくすく伸びて、1985年には約8m、そして今年8月には30mになっています。丈夫で長生きな木なので、子供達の成長をこれからも見守ってほしいですね。

*2,995歳±250歳と推定されています。



セコイヤの樹木の前にて、断面も巨大!

MeySen もの知り百科

園のセコイヤはとても大きく、周りに他の木も密集しているため、園職員では高さを測れなかったため、専門の方にドローンで計測していただきました。セコイヤの根元付近からドローンを垂直に上昇させ、セコイヤの先端と同じ高さまで飛ばすことで高さを測るというユニークな方法です。



ドローンによる計測の様子は動画でもご覧いただけます。こちらのQRコードからぜひ見て下さいね!

- Let's Go!!
- 1 ドローンの準備完了
 - 2 飛行開始
 - 3 根元から上へドローンを操作
 - 4 セコイヤの先端に到達したところでドローンの高度を確認

創立時の保育担任の先生と名誉理事長が再会



明泉幼稚園は、1967年に年少と年長*1クラスずつで開園しました。7月14日、初代の英語担任だったフィリップ・ブローマン名誉理事長、園長兼保育担任だった本間裕子先生と山岸睦子先生、高橋まさ子先生が57年ぶりに4人で再会を果たしました。

「仙台で幼児に英語を教える幼稚園を開くことには大きな不安もあったけれど、明泉の教育が喜ばれて開園2年目には100人以上が入園しました。でも、掃除をする用務もないし、私は道路の水たまりを直したりしましたね(名誉理事長)」「どうしてあんなにできたか不思議なくらいですよ」「みんなよく働いたね」と、思い出は鮮明で話は尽きることなく続きました。

※それぞれ現在の年中と年長



フィリップ名誉理事長と昨年亡くなったバーバラ先生は、幼児に英語を教えるノウハウも教材もない中、明泉の英語教育カリキュラムと教材を一から作り上げました。



左から本間先生、フィリップ名誉理事長、高橋先生(ご結婚後は亀山)、山岸先生(ご結婚後は佐藤)



開園時の先生達
後列左から高橋先生、バーバラ先生、フィリップ先生
前列左から本間先生、小川先生、山岸先生

クリスマスツリーとエアホッケーを寄付していただきました。

この春、太平電気株式会社様と七十七銀行様より、クリスマスツリー(北欧製で高さ3m)1本と電動エアホッケー2台を寄付していただきました。

5月には、代表取締役社長の佐々木勝彦様、七十七銀行上席執行役員の井深修様にお越しいただき、贈呈式をしました。子供達の活動を支えるご寄付、本当にありがとうございました。

向かって左が佐々木勝彦様
右が井深修様



いただいたエアホッケーは丸山のフレンドクラブで活用しています。12月にはクリスマスツリーも丸山に飾りますので、お楽しみに!



同窓生 佐藤 冬唯 (Keith)

高森プリミアスクール 同窓41回生

私がプリミアスクールに通っていた頃の思い出は、小学校4年生の時にシアトルへ行ったことです。現地の人と英語で会話をし、ホームステイでアメリカの方々と生活ができたのは、日頃から英語の勉強を欠かさずにプリミアスクールに行っていたからだと思います。現地の人はとても温かい人が多く、日本では経験できないようなことばかりで、すべてが大切な思い出です。

私は高校入学と同時にレスリングを始めました。テレビで総合格闘技やプロレスを見て興味を持ち、高校ではレスリング部に入学しました。部活は朝、昼、放課後に練習があり、想像以上にきついスポーツでした。しかし、毎日必死に食らいつき練習した結果、高校3年生の国体で5位入賞することができました。大学1年生になりコロナの影響で試合が中止になった時に、仙台でブラジリアン柔術に出会い、始めました。そして、2023年7月に行われたアジア選手権大会紫帯クラス*で3位に入賞しました。柔術の試合では外国人選手と戦うことが多いので、戦うと体格の違いやパワーの差を感じます。よって、私は力だけで勝つのではなく、日頃の練習から頭を使う戦い方や

自分らしさを出すように意識しています。国際大会に出場するようになり、外国人選手と英語で話す機会が増えました。幼い頃から明泉で培ってきた英語の力がこのようなところで生かされて、改めて恵まれた環境にいたことを実感しています。現在は大学でレスリングを、夜に柔術の練習をしています。ここまで私を成長させてくださったすべての方々、そして両親への感謝を忘れず、今後はもっと活躍して返していきたいです。



7月に名古屋市で開催されたブラジリアン柔術アジア選手権大会紫帯クラスで第3位



*帯の色は経験・実力・技術で認定され、紫帯は最上位の黒帯まであと2ランク



右から5番目が佐藤君

- Vision**
- 1 誠実さ Truth & Integrity
 - 2 ことば Language & Expression
 - 3 社会性 Social Development
 - 4 自発性 Initiative & Self-motivation
 - 5 精神力 Strength & Perseverance
 - 6 希望と平安 Hope & Peace

明泉の教育のビジョン 目指す理想の姿



園長
ダニエル・ファンガー

明泉では、子供達の「自立」と「将来の幸せ」を最大の目標とし、明確な教育のビジョンを立て、具体的な教育の内容を左の6つの柱にまとめていますが、今回は最初の2つ「誠実さ」と「ことば」を取り上げます。

誠実さ Truth & Integrity

1つ目の柱は「誠実さ」です。明泉の教育の土台になり、子供達の将来の幸せと有益な人生のためには欠かせないものと考えています。

● 神を畏れ敬い、隣人を愛する

明泉学園の基本方針にも含まれる言葉ですが、子供達にはいつも神様を喜ばせる言動をとること、自己中心や自分本位ではなく他人の益となること、他人を助ける気持ちと仕える心を持ってほしいです。

● 親を尊敬し、素直に聞き従う

子供のための神様からの命令であり、約束を伴ったものです。これを守れば、幸せになり長生きすると書いてあります。親は子供を心から愛し、子供が心から親を敬い、素直に聞き従えば、幸せです。

● 善を愛し、悪を退ける

これも学園の基本方針にある「真理と正義を希求し」の正義を希求することに当てはまることと考えます。何が正しいのか、何が悪いのかしっかり判断し、悪を憎み、善を愛するものとなるように日々の教えと訓練が必要と考えます。

● 嘘をつかない/不正を行わない

自分に都合が悪い時にも嘘をつかないこと、どんな時でも真実を語る。真理と公正さを追求するように教えたいです。

ことば Language & Expression

2つ目の柱は、「ことば」です。ここに込められているのは、文章力と全体的なコミュニケーション力です。

● ことばは、すべての学びの土台

言語力は学校教育をはじめとするすべての学びの土台となるものです。幼児期から豊かな言語環境を備え、ことばや文字に興味や関心を持てるようにします。

● 表現力・コミュニケーション力

コミュニケーション力や表現力は、仕事上でも良好な人間関係を築くためにも重要なツールです。多くの企業が採用において重要視している力です。

● 英語でのコミュニケーション

英語は世界の共通語として、とても貴重なツールです。日常的に英語を使わない環境においても、英語でコミュニケーションができるのは必ずプラスになります。

● 異文化理解と国際感覚

英語の学びを通して自然と身につくのが国際感覚や異文化理解です。他の文化への理解をもち、国際感覚が身につくれば、仕事上でもプライベートでも世界の人と上手にかかわれるようになります。

今回は2つの柱を取り上げましたが、特に1つ目の「誠実さ」に込められている思いが明泉学園の教育の土台となっていますので、その意味についてもう少し掘り下げて説明します。

明泉学園の基本方針に「正義」や「真理」ということばがありますが、その基準は何でしょうか。それは宇宙万物を創造された神様が定めています。動物には「正義」や「真理」という概念はありませんが、人間は神様の形に造られ、神の善悪と真理の基準を心に植え付けられています。私達一人一人が神の基準に従って生きるなら、この世界には平和があり、人は互いに愛し合い、神様の喜ばれる世界が築かれているはずで

しかし、実際の世界はそうではありません。人間はいつも自分の利益のために他人を犠牲にし、善悪の基準を勝手に変えています。自分さえ良ければと考え、弱い人を犠牲にしたり利用したりします。個人だけでなく、社会全体で不正がはびこり、無力な人が犠牲となります。積極的であろうと受動的であろうと、無意識であろうと、人間にはみな不正と不義があります。すべての人が神様の前で罪人なのです。私達の罪を清めて赦す力があるのは、イエス様だけです。そして、私達が真理と正義を愛し追いつめるようになるためには、神様に心を変えてもらわなければなりません。

人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのか。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。 (ミカ書 6:8)

子供の皆さんも大人の我々も、弱者を救い助け、不正や不義を憎む者となり、そして、公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、神様に喜ばれる人生を歩みましょう。

今の世界の様子を見ていると、聖書に預言されたイエス様の再臨が近いと感じます。ぜひ、イエス様の救いに頼り、罪の赦しと永遠の命をいただき、救いの確信を持って神様の前に立てるようにしてください。

フレンドクラブとプレミアエレメンタリーは2024年度から変わります

これまでフレンドクラブは週3日、プレミアスクールエレメンタリーは週6日の登園で授業を行っていましたが、2024年度からは右の表のように変更いたします。

この変更の第1の理由とねらいは、英語教員の採用活動をする際に土曜勤務が敬遠されていること、そして、高いスキルを持ち生徒にも信頼されている英語教員の働く環境を改善し、長く勤めてもらうことにあります。授業時間の延長や特別授業日など、これまでと同等の学習時間を保つ対策と改善を重ねながら、子供達に喜ばれる授業に引き続き努めてまいります。

フレンドクラブ

新1年生	週2日(火木)登園と年間7日の特別授業
新2~4年生	週3日(月水金)登園
新5・6年生	週2日(火木)登園、授業時間10分延長

プレミアエレメンタリー

授業日	週5日(月~金)
授業時間	火木の授業をそれぞれ10分延長
特別授業	年7回、土曜日に実施

(2023年10月1日時点の2024年度変更計画)



- 1 チューリップ
 - 2 バンジー
 - 3 ハボタン
 - 4 合歓の木
 - 5 アジサイ
- 前号の答え

203号のクイズへのたくさんのご応募ありがとうございました。応募数121名、正解者は105名でした。

明泉メタモカラー マグカップ当選者
丸山:フレンド3年 大内桜子さん
高森:フレンド3年 梶山菜々子さん

明泉オリジナル メモパッド当選者

丸山:年少 斎藤千暉君、年長 新沼百合花さん
高森:フレンド1年 千葉結城君、フレンド3年 若本愛結実さん

